

令和6年度 教育事業報告書



独立行政法人 国立青少年教育振興機構



Aso National Youth Friendship Center

国立阿蘇青少年交流の家

<ASO応援Project>

私たちは国立阿蘇青少年交流の家を応援しています ※敬称略・50音順

◆北九州予備校◆熊本学園大学◆(公財)日本教育公務員弘済会熊本支部/株式会社熊本教弘◆壺溪塾◆崇城大学

はじめに
～ 開所 60 周年、新たな歴史の一步 ～

(独) 国立青少年教育振興機構
国立阿蘇青少年交流の家
所 長 牛田 卓也

当所は、ユネスコ世界ジオパークにも認定されている雄大な阿蘇カルデラのほぼ中央部に位置し、今なお噴煙を上げる阿蘇中岳を始め雄大な景色を一望できる草原の中に施設を構えています。そして、春の野焼きから始まり、夏には青々とした牧野と赤牛、秋には銀色に輝く一面のススキ、冬には白銀の世界になることもあり、四季折々の景色を目にすることができます。

そのように素晴らしいロケーションの中に当所が開所したのは昭和 39 年 5 月、わが国が高度経済成長期にあり、東京オリンピックの開会を目前に控え、社会全体が右肩上がりの時代でした。それから歳月が流れ、昨年 11 月に当所は開所 60 周年記念式典を挙行いたしました。しかしながら、「還暦」を迎えるにあたり、これまでの歴史に学び、そのうえで現状や未来に目を向けながら、この 1 年間各事業や研修支援などを行ってきました。本報告書は、このうちの教育事業について今年度実施してきました内容をまとめたものです。

事業を進めるにあたっては、機構本部から示されている事業区分を踏まえつつ、「阿蘇」ならではの特色や課題という地域の視点も大切に取り組んできました。また、ICT 活用や探究的な学び、いじめ・不登校問題などの学校教育の現状なども念頭に置き、地域や関係機関の皆様とも密に連携を図りながら各事業の企画立案や運営等を行ってきたところです。機構全体の財政状況が厳しい中、当所でも事業実施や施設設備の維持管理等に関する予算も厳しい状況にあります。更に、昨今の諸物価高騰の影響も少なからず現れています。しかしながら、皆様の温かい御支援・御協力に支えられ多くの事業を推進することができました。この場をお借りしまして、関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

当所の開所から 60 年がたった今日、教育を取り巻く環境や地域が抱える課題等が目まぐるしく変化するとともに、当所が置かれた状況も刻々と変わりつつあります。中でも近年の急速なデジタル化は、様々な面で便利になる一方、リアルなコミュニケーションや体験が希薄になるのではないかと危惧しているところです。そのような変化の時代にあって、これまでの歴史を礎に、地域における青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たしていく所存です。

皆様におかれましては、是非とも本報告書をご一読いただき、私どもがしっかりと役割を果たせるよう引き続き御指導・御支援を賜りますようお願いいたします。

目 次

はじめに	1
目次	2
第1章 令和6年度の教育事業について	3
第2章 令和6年度の教育事業の実際	5

青少年教育に関するモデル的事業

A S O一周100kmチャレンジキャンプ	6
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿	8
地域探究プログラム 九州沖縄ブロック地方ステージ	10

社会の要請等に応える体験活動等事業

ジュニアジオガイド講座（全3回）	12
サイエンスカフェ「阿蘇の水基巡りカフェ」	14
ワクワクえほん時間 ～親子で絵本に親しもう～	15

課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

チャレンジサマーキャンプ	17
--------------------	----

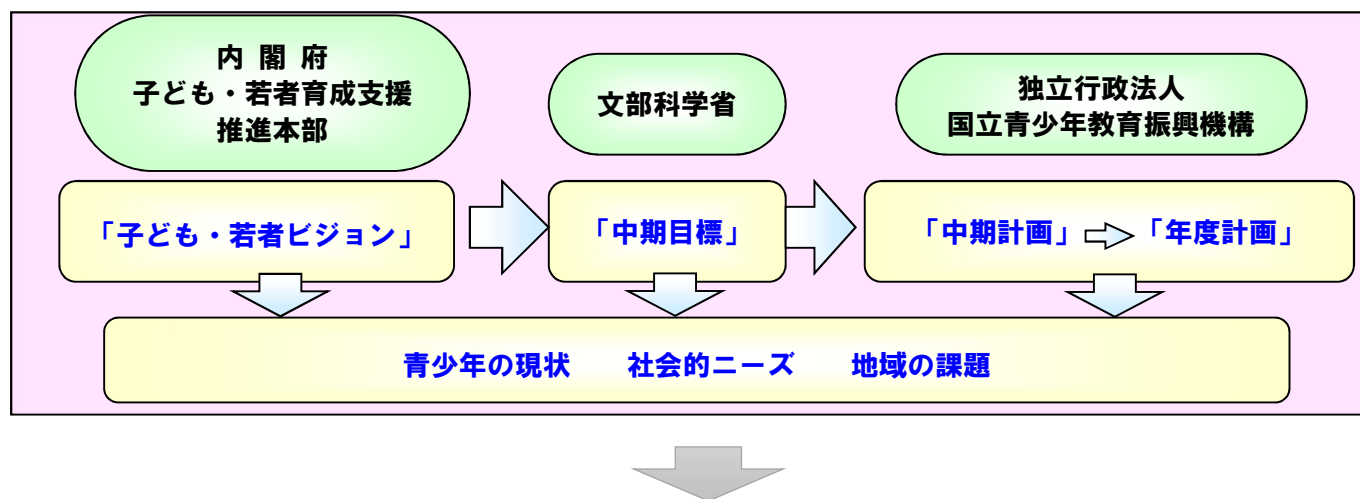
青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

阿蘇ボランティア入門塾	19
ボランティア自主企画「ファミリーキャンプ!!～家族の宝探し編～」	21
あとがき	23

令和 6 年度の教育事業について

第1章 令和6年度の教育事業について

令和6年度の教育事業においては、国の青少年教育行政の基本方針及び第4期中期目標・中期計画、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、更に学校や地域との連携を進める中で、「体験の風をおこそう」運動をより一層推進するとともに、事業の重点化と普及を図ってきました。また、「阿蘇市自然体験活動推進条例」や「機構活性化プラン」、「今後の青少年の体験活動の推進について（答申）」及び「子供の貧困対策に関する大綱」等に伴う事業を実施し、施設の独自性を打ち出した取組を行ってまいりました。



令和6年度 国立青少年教育振興機構 教育事業の柱

1 青少年教育に関するモデル的事業

関係機関・団体や国公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携した上で、報告書を通して広く青少年教育関係者へ発信する。実践研究事業は、令和6年度は、これまでの事業成果や報告書を踏まえて、研究すべきテーマをさらに深めた事業を実施し、最終報告書を作成する。地域の実情を踏まえたプログラム事業（特色化事業）は、企画段階から菅家機関・団体等と連携して実施し、青少年のための専門性の高いモデル的体験活動を取り入れ、使用した教材や指導案などの学習方法が活用されるように工夫し、第四期中期目標期間内に冊子の作成やフォーラムなどを開催する。全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」は、連携学校と協議の上、カリキュラム内容に留意しながらオリエンテーション合宿を実施する。

2 社会の要請等に応える体験活動事業

社会の要請に応える体験活動の推進のために、親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を自然体験活動指導者や絵本専門士等と協働して実施する。

3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

青少年を取り巻く今日的課題に対応するため、企画段階から専門機関等と連携・協力し実施する。その際、基本的な生活習慣の確立や人間関係形成力など焦点を定め、青少年の状況を踏まえ質の向上を図る。

4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

青少年の異文化理解の増進を図るため、国内外の関係機関・団体等と連携して、青少年、青少年教育指導者等の相互交流を行う事業、青少年の異文化理解を促進する交流事業を実施する。

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、質の高い指導者を養成することが必要不可欠であることから、各地域ブロックで連携を図りながら事業を実施する。

令和 6 年度の教育事業の実際

事業名 ASO一周100kmチャレンジキャンプ

- 〔主催〕 国立阿蘇青少年交流の家
 〔後援〕 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会 南小国町教育委員会 南阿蘇村教育委員会
 〔期日〕 令和6年8月18日（日）～24日（土） 【6泊7日】
 事前説明会 令和6年8月4日（日）
 〔活動場所〕 国立阿蘇青少年交流の家及び阿蘇各地
 〔参加者〕 20名（小学生12名、中学生8名）
 〔担当職員〕 阿蘇青少年交流の家7名
 〔関係団体〕 南阿蘇ファームキャンプ アイデアITカレッジ阿蘇
 〔ボランティア〕 法人ボランティア9名

1 趣 旨

自然環境に恵まれた「阿蘇」の大地をフィールドとして、100kmの長距離ハイキングやキャンプ活動等を通して、同じ目的をもった仲間とともに困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育むとともに他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣を身に付ける。

2 目 標

- （1）参加者8割が、最後までやり遂げる力が身についたと答えることができる。
 （2）参加者8割が、友達と仲良くなり、思いやりをもった行動ができたと答えることができる。

3 事業展開

（1）研修プログラム

期日	行程	宿泊場所	距離 (km)
1日目	8/18 出発 →阿蘇神社→国造神社→一の宮温泉館	内牧小	13.3
2日目	8/19 内牧小→大観峰→小嵐山公園	市原小	18
3日目	8/20 市原小→旧宮原線→木塊館→下城の滝	市原小	15
4日目	8/21 市原小→千光寺→中原小→押戸石	白水小	13.4
5日目	8/22 米塚→草千里周回→杵島岳周回→中岳火口→砂千里→火口駐車場	アイデアITカレッジ阿蘇	12.6
6日目	8/23 アイデアITカレッジ阿蘇→新阿蘇大橋→白川水源	白水小	21
7日目	8/24 鍋の平キャンプ場→交流の家（ゴール）		15

（2）活動の様子



【事前説明会】



【1日目 阿蘇神社にて】



【2日目 旧国鉄宮原線】



【5日目 砂千里にて】

【6日目 水源にて】

【7日目 ゴール風景】

4 評価、成果と課題

(1) 評価

① 参加者の満足度

設 問	項目	◎	○	△	×
周りの友達から支えられていると感じることができたか。	回答数 (人)	17	3	0	0
	割合 (%)	85	15	0	0
お互いに励まし合って活動に取り組むことができたか。	回答数 (人)	18	2	0	0
	割合 (%)	90	10	0	0
つらい時に、力を振り絞って頑張ることができたか。	回答数 (人)	19	1	0	0
	割合 (%)	95	5	0	0

② 参加者の声

- ・ 楽しくて、一週間があっという間に過ぎていきました。もっと長い時間みんなと A S O 1 0 0 したかったです。
- ・ 自分がつかれていた時「荷物を持ってあげようか」と聞かれ、周りの友達から支えられていると感じた。
- ・ 班の友達と助け合うことができた。助け合いはすごくいいことだから、日常生活でも頑張りたい。
- ・ 1 番でのゴールを狙っていたけれど、最後はそんなの関係なく、他の班とも楽しくゴールできた。

(2) 成果

- スタート時に子供たちとルール「安全、一生懸命、公平、楽しく」を確認したことで、子供たちも意識することができ、ボランティアもルールをよりどころとしてサポートすることができた。
- 法人ボランティア 9 名に参加してもらい、活動中は各班に 2 名配置し、安全指導を徹底することができた。また、子供たちの関係性の細かい変化も気付くことができた。
- 宿泊地を次の日のスタート場所にすることにより、朝早くから出発することができ、涼しい時間帯に活動することができた。
- 阿蘇医療センターと連携し、専門的なアドバイスを得ることができ、熱中症や感染症対策について、事前説明会や職員・ボランティア研修会に生かすことで、全員無事にゴールできた。

(3) 課題

- 新しいルートを取り入れ、ルート自体はいいものであったが、職員も少し迷ってしまうところがあったので、下見で分かりにくいところの確認などを実施しておくべきであった。
- ボランティアとの振り返りの時間やボランティア同士での相談の時間が長くかかってしまう日があり、体調面を考えると改善していく必要がある。

事業名 探究オリエンテーション合宿

- [主 催] 国立阿蘇青少年交流の家
 [後 援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
 [期 日] 講義① 令和6年6月5日(水)
 [期 日] 合 宿 令和6年7月16日(火)～17日(水)【1泊2日】
 [期 日] 講義② 令和6年11月20日(水)
 [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
 [参 加 者] 熊本県立阿蘇中央高等学校 普通科・総合ビジネス科 1年生 50名
 [講 師] 鈴木 俊良 氏(学校法人イデア熊本アジア学園 イデア IT カレッジ阿蘇)
 長野 良市 氏(株式会社阿蘇アースライブラリー)
 藤田 幸代 氏(環境省九州地方環境事務所阿蘇くじゅう国立公園管理事務所)
 [担当職員] 国立阿蘇青少年交流の家 職員 1名

1 趣 旨

参加者が興味・関心と地域・社会に存在する様々な課題を結びつけ、多様な人々と協働しながら探究のプロセスを用いた実践活動に取り組むためにものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識などを学習する。

2 目 標

- (1) 参加者の8割がオリエンテーション合宿に参加して達成感を感じる。
 (2) 参加者の8割が合宿後の学習について見通しを持つことができる。

3 事業展開

7月16日(火)		7月17日(水)	
時刻	活動	時刻	活動
09:40 09:55	開会式	07:15 07:30	朝のつどい
10:00 12:00	講話① 講師：鈴木 俊良 氏	07:30 08:30	朝食
12:00	昼食	09:00	退所点検 等
13:00 16:30	入所オリエンテーション 草原オリエンタリング	09:30 11:30	講話② 講師：長野 良市 氏
16:30	休憩・荷物整理	11:40 12:30	演習② 合宿の振り返り
17:00 17:30	タベのつどい	12:30 13:20	昼食
17:45 18:45	夕食	13:30 13:45	アンケート記入
19:00 20:30	演習① クラスミーティング	13:45 14:10	閉会式
20:45 21:45	入浴		
22:00	就寝準備・就寝		
22:30	消灯		



【開会式(7/16)】



【講話① 探究をジブンゴトにしよう(7/16)】



【講話② 写真で伝える阿蘇の魅力(7/17)】



【講義 阿蘇の環境と地下水(11/20)】

4 評価、成果と課題

(1) 評価

① 満足度(50名全員回答)

質 問	項 目	満足	やや満足	やや不満	不満
オリエンテーション合宿の満足度はどのくらいですか。	回答数(人)	36	11	3	0
	割合(%)	72	22	6	0
今後の学習に生かすことができそうですか。	回答数(人)	41	7	2	0
	割合(%)	82	14	4	0

② 感想

- ・何を問題として捉えるのかが大事だと思った。理想と現状について考えることができた。
- ・探究学習でどんなことをすればよいか、少し分かった気がする。
- ・素敵な写真を見て、阿蘇にはたくさんの魅力があることを知った。
- ・伝え方はいろいろあると思った。自分も写真を撮って伝えてみたいと思った。
- ・阿蘇の環境を守るためにたくさんの活動があることを知った。

(2) 成果

- 合宿前にガイダンスを実施することで、参加者への意識付けを行うことができた。
- 講師による専門的な講話を通して、探究のテーマについて考えさせることができた。
- 合宿後も講義を設定することで、探究学習の支援を行うことができた。

(3) 課題

- オリエンテーション合宿の趣旨等について関係者への周知が不十分な点があった。
- 合宿後に実践活動が円滑に実施できるよう積極的な支援の在り方を検討する必要がある。

事業名 九州・沖縄ブロック地方ステージ

[主 催]	国立阿蘇青少年交流の家
[後 援]	熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
[期 日]	令和6年12月25日(水)～26日(木) 【1泊2日】
[活動場所]	国立阿蘇青少年交流の家
[参 加 者]	熊本県立阿蘇中央高校 9名 鹿児島県立国分高校 2名 学校法人津曲学園鹿児島高校 1名 長崎県立佐世保南高校 2名 国立熊本工業高等専門学校 1名 学校法人時任学園樟南高校 1名 久留米市立南筑高校 10名
[担当職員]	阿蘇青少年交流の家 4名
[ボランティア]	法人ボランティア 2名

1 趣 旨

新学習指導要領に定められた「総合的な探究の時間」の目標等に基づいた研修会を実施するとともに、生徒が地域で行う探究活動を顕彰することで、生徒一人一人が社会の担い手となって、社会の成長につながる新たな価値を創造する人材になることを支援する。

2 目 標

- (1) 参加者8割が、事業全体に「満足」することができる。
- (2) 参加者8割が、発表会を通じて自身の学びを高めることができる。
- (3) 出場者の発表を評価・審査し、全国ステージに出場するグループ・個人を選出する。

3 事業展開

- (1) 研修プログラム

12月25日(水) リハーサル	12月26日(木) 地方ステージ
13:00 各施設集合	6:30 起床
13:10 入所式	7:15 朝のつどい
14:30 発表練習・リハーサル	7:30 朝食
18:15 夕食	9:20 開会式～発表
20:15 入浴(～21:00)	12:30 昼食
22:30 消灯・就寝	13:15 グループワーク
	14:00 講評・審査結果発表～閉会式
	15:00 解散

- (2) 活動の様子



アイスブレイク



グループワーク

(3) 審査結果（最優秀賞）

個人の部：熊本高専八代キャンパス「八代をもっともっと発信するために」

グループの部：樟南高校・鹿児島高校「link！マナビを通して見えた町」

※全国ステージへ出場

4 評価、成果と課題

(1) 評価（参加者の振り返りアンケートから）

* 参加者の8割が事業全体に満足できるか。

* 参加者の8割が発表会を通じて自身の学びを高めることができるか。

	満足 4	やや満足 3	やや不満 2	不満 1
① リハーサル・地方ステージはどうでしたか。	81.5%	18.5%	0.0%	0.0%
② プレゼン発表（他のグループを聴いて）は学びになった	85.2%	14.8%	0.0%	0.0%
③ グループワークは学びになった	96.3%	3.7%	0.0%	0.0%
④ 満足のいくプレゼン発表ができた	30.0%	69.2%	3.8%	0.0%
⑤ 質疑応答では、委員の質問に対して答えることができた	22.2%	51.9%	11.1%	14.8%
⑥ 今後の活動や進路を考える上でのよい経験となった	74.1%	25.9%	0.0%	0.0%

<対象> 参加者 26 名(2024.12.26 全活動終了後実施)

(2) 参加者の声

- 皆のプレゼンが九州ステージなのに全国なみでびっくりしました。プレゼンに刺激され、自分も成長できた気がします。
- この場でプレゼンができたことがとても楽しかったです！みんなの発表を聞いて学んだことも多いので、今後の活動やプレゼンにつなげていきたいです。
- これまでは自分たちの学校でしかスライドの発表をする機会がありませんでしたが、今回は他の県や地域の人の発表を聞けてよかったです。
- いろんな人と交流ができ、学ぶことがたくさんありました。これからの学校生活や将来の職業に向けて生かしていきたいです。
- 参加者との交流を通じて、それぞれが行っていた活動の話ができたり、その人が住んでいる地域のことを知ることができたりして、とてもよい刺激になりました。

(3) 成果と課題

- 振り返りのアンケートから、ほとんどの参加者が本事業に対して満足するとともに、自身の成長を実感したり、他の参加者との交流をポジティブにとらえたりする結果を確認できた。
- 今年度、評価委員を1名増やしたことにより、参加者の発表に対するフィードバックが過年度以上に広がり、深まりのあるものとなった。
- 入所時にアイスブレイクの時間を十分に確保したことで、その後の参加者同士の交流が促進された。
- 法人ボランティアが積極的に運営にかかわり、事業の目的達成に寄与することができた。結果として当人たちの成長にもつながった。
- 発表に対するフィードバックが評価委員からのみに留まった。参加者が相互に発表への意見や感想を伝えあえるような仕組みが必要であった。
- 日程の関係で、グループワークと審査の時間が並行して行われた。そのため、評価委員は、グループワーク時の参加者の様子を見ることができなかった。次年度は、評価委員もグループワークを参観し、参加者への助言や励まし等が行えるようにしたい。

事業名 ジュニアジオガイド講座

- 〔主 催〕 国立阿蘇青少年交流の家（国立阿蘇青少年交流の家開所 60 周年記念教育事業）
- 〔共 催〕 阿蘇ジオパーク推進協議会
- 〔委託元〕 環境省 九州地方環境事務所 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所
- 〔後 援〕 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
- 〔期 日〕 第1回 令和6年9月21日（土）～9月22日（日）【1泊2日】
 第2回 令和6年9月28日（土）～9月29日（日）【1泊2日】
 第3回 令和6年10月5日（土）～10月6日（日）【1泊2日】
- 〔活動場所〕 国立阿蘇青少年交流の家、池の窪牧野、阿蘇神社、往生岳、草原学習館、大観峰 等
- 〔参加者〕 21 名（小学生 11 名 中学生 10 名）
- 〔講 師〕 永田 紘樹 氏（阿蘇ジオパーク推進協議会事務局長）
 渡邊 裕介 氏（阿蘇ジオパーク推進協議会次長）
 松原 かおる 氏（環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所）
 高木 政夫 氏（池の窪牧野組合組合長）
 早野 慎哉 氏（WakuWaku OFFICE あそ Be 隊）
 原 大貴 氏（公益財団法人阿蘇グリーンストック）
 久保 亮之 氏（熊本地震震災ミュージアム KIOKU 統括マネージャー）
 天野 時生 氏（熊本地震震災ミュージアム KIOKU ガイド）
- 〔スタッフ〕 交流の家職員 5 名 法人ボランティア 4 名 阿蘇ジオパーク推進協議会 4 名

1 趣 旨

- （1）国立阿蘇くじゅう国立公園・阿蘇ユネスコ世界ジオパークをフィールドとして阿蘇の草原や火山について体験を通して学び、阿蘇の魅力について伝えるジオガイド活動に取り組む。
- （2）草原の維持、水資源涵養、世界ジオ認定の継続、世界文化遺産登録実現等の地域課題等について、社会教育の視点からアプローチする。

2 目 標

- （1）事業全体を通して参加者の満足度について 8 割以上を目指す。
- （2）阿蘇について学ぶことやガイドについて考える活動について満足度 8 割以上を目指す。

3 事業展開

- （1）プログラム（各回の主な活動）

第1回 ジオエクスプローラー	
9月21日（土）	9月22日（日）
9：30 受付	6：30 起床・身支度
10：00 開会式	9：15 ガイダンス③「阿蘇の大地」
11：00 草原探検（オリエンテーリング）	10：30 まとめ
14：00 池の窪牧野探検（夜峰山近辺）	11：00 カルデラ実験
19：00 ガイダンス①「テーマ設定」	13：20 阿蘇神社（水基めぐり）
20：00 ガイダンス②「ガイドの伝え方」	14：50 役犬原自噴湧水見学
21：00 振り返り	15：00 まとめ

第2回 ジオレンジャー	
9月28日（土）	9月29日（日）
9：00 受付・登山準備	6：30 起床・身支度
10：00 往生岳登山口	9：30 草原学習館
12：30 昼食（持参弁当）	9：45 スペシャルワークショップ
ガイダンス④「国立公園ガイド」	10：00 ワークショップ①

15:30 往生岳登山口	11:00 ワークショップ②
16:30 交流の家	14:00 大観峰散策・下見
19:00 振り返り・原稿案作成	16:00 解散

第3回 ジオガイド	
10月5日(土)	10月6日(日)
9:30 受付	6:30 起床・身支度
10:30 震災ミュージアム KIOKU 見学 新阿蘇大橋・立野ダム経由	9:00 原稿最終チェック
14:00 交流の家	11:45 大観峰現地ガイドリハーサル
14:30 疑似野焼き体験	13:00 ジュニアジオガイド
16:30 振り返り	15:45 交流の家
19:00 原稿作成・リハーサル	16:00 閉会式(認定証授与)
	16:30 解散

(2) 活動の様子



【池の窪牧野探検】



【カルデラ実験】



【往生岳登山】



【ワークショップ】



【震災ミュージアム KIOKU 見学】



【ジオガイド】

4 評価、成果、課題

(1) 評価

質 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
満足度はどれくらいですか。	回答数(人)	21	0	0	0
	割合(%)	100	0	0	0
阿蘇やガイド活動について学ぶことができましたか。	回答数(人)	20	1	0	0
	割合(%)	95	5	0	0

- ・今回は笑顔で誰にでも分かるような話でガイドができたからよかった。観光で来てくれた人たちが興味を示してくれるのはうれしいし、自分もやっていて楽しかった。またガイドしたい。
- ・職員さんやボランティアの人に手伝ってもらって、外国の人にもガイドすることができてよかった。もっと長くガイドをしてみたい。

(2) 成果

- ・阿蘇ジオパーク推進協議会との共催としたことで、専門的見地からの指導・支援が実施できた。
- ・参加対象を中学生まで拡大したことで、経験者の参加も増え、ガイド活動が充実した。
- ・体験活動を主にしたことで、参加者の満足度が非常に高くなった。

(3) 課題

- ・荒天時でも十分な体験や学びを保障するために、日程調整やプログラムの準備について留意する必要がある。

事業名 サイエンスカフェ「阿蘇の水基めぐりカフェ」

[共催] 国立阿蘇青少年交流の家 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター

[期日] 令和6年11月23日(土)

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家・阿蘇神社周辺

[参加者] 18名

[講師] 渡部 慎也(熊本大学)

1 趣 旨

体験活動や実験を通して、阿蘇の火山や地下水について学び、理解を深める機会を創出する。

2 目 標

- (1) 参加者の8割以上が事業の満足度に対して肯定的に回答する。
 (2) 参加者の8割以上が「また参加したい」と回答する。

3 事業展開

時刻	内容等
13:20	参加者集合・受付
13:30	プログラム説明 (交流の家職員)
13:40	バス移動
14:05	阿蘇神社周辺
15:05	水基めぐり 16 マス
15:10	バス移動
15:35	湧水きき水・実験等
16:40	(熊本大学 渡部氏)
16:45	解散



【活動の様子】

【左上】渡部氏によるガイダンス

【上】きき水実験

【左】各地の湧水等

4 評価、成果と課題

(1) 評価

① 満足度(参加者18名)

質 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体の満足度はどのくらいですか。	回答数(人)	17	1	0	0
	割合(%)	95	5	0	0
また参加したいですか。	回答数(人)	16	2	0	0
	割合(%)	90	10	0	0

② 感想

- ・フィールドワークと室内実験の両面から体験できてよかった。
- ・阿蘇神社には何回も来たことがあるが、「水基めぐり」は初めての体験だった。
- ・自分は湧水が一番おいしいと思っていたが、他の水との味の違いは全然判断できなかった。
- ・体験と実験は大人も子どももわくわくしながら参加できると思う。

(2) 成果

体験活動と実験を組み合わせたプログラムは参加者に好評であり、次回参加の希望も多かった。

(3) 課題

連携、共催を行う上で、連絡が不十分な個所があった。事前試行をするなどして、当日の役割分担を明確にするべきであった。

事業名 ワクワクえほん時間～親子で絵本に親しもう～

[期 日] 令和7年3月1日(土)

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家

[参加者] 5家族19名(保護者6名、8歳児4名、6歳児4名、5歳児2名、4歳児1名、3歳児2名)

[講師] 吉田 美樹(「出張絵本屋モフ books」代表・絵本専門士)

1 趣 旨

創作などの体験活動や絵本専門士のワークショップを織り交ぜることで、読書活動から得た子どもたちの想像力や好奇心を満たす場を提供し、「読み聞かせ」が親子のコミュニケーションの一助となるようにサポートする。

2 目 標

- (1) 参加者の8割以上(保護者、子ども)が、読書活動を今後も続けたいと考える。
- (2) 参加者の8割以上(保護者)が、親子のコミュニケーションの手段として読み聞かせが有効だと感じる。
- (3) 参加者の8割以上(子ども)が、読書活動に楽しさを見出すことができる。

3 事業展開

- (1) 研修プログラム

時刻	内容等
12:45	参加者集合・受付
13:00	全体の流れ説明・講師紹介
13:10	子どもへの読み聞かせ(絵本専門士 吉田氏)
13:50	・【保護者向け】読み聞かせレクチャー(絵本専門士 吉田氏) ・【子ども向け】しおりの材料集め
14:30	親子でしおり作り体験
15:20	・焚き火の絵本 読み聞かせ(絵本専門士 吉田氏) ・焚き火
16:15	解散

(2) 活動の様子



【↑読み聞かせ】



【↑保護者向けレクチャー】



【↑しおりの材料集め】



【↑たき火】

4 評価、成果と課題

(1) 評価

① 満足度（回答者 5 家族 19 名：保護者 6 名、8 歳 4 名、6 歳 4 名、5 歳 2 名、4 歳 1 名、3 歳 2 名）

質 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
絵本の読み聞かせや、読書活動は楽しかったですか。 ※子どもに向けたアンケート	回答数（人）	12	1	0	0
	割合（％）	92	8	0	0
今回のワークショップを通して、「読み聞かせ」が親子のコミュニケーションに有効だと感じましたか。	回答数（人）	5	0	0	0
	割合（％）	100	0	0	0
今後も、読書や読み聞かせの活動を続けていきたいと思いませんか。	回答数（人）	5	0	0	0
	割合（％）	100	0	0	0

※子どもに向けたアンケートは口頭にて実施

※書面でのアンケートは家族ごとに実施したため、5 家族分の回答となる

② 感想

【保護者】

- ・ 絵本の時間は自分の中で大切にしていたつもりだったが、改めて、絵本専門士の話を聞いて大事にしていこうと思った。
- ・ 来年もイベントをしてほしい。焚き火の準備などいろいろとお世話になった。
- ・ またこのような機会を楽しみにしている。
- ・ 改めて絵本の良さを感じることができた。子どもとの時間を大切にしたいと感じた。

【子ども】

- ・ 絵本（の読み聞かせ）や落ち葉遊びをまたやりたい。
- ・ 焚き火のまわりでみんなとおやつを食べたのが楽しかった。
- ・ しおり作りが楽しかった。
- ・ マシュマロを焼いて食べたことが楽しかった。

(2) 成果

- 絵本専門士と事前に打ち合わせを行い、今回の事業の趣旨や目的を伝えていたので、こちらの趣旨に沿った絵本を選書し、レクチャーに臨んでいただくことができた。
- 読書活動と体験活動を組み合わせたプログラムは参加者の満足度が高く、目標を達成することができた。今後同様のイベントを実施してほしいという希望も多かった。読書活動を取り入れた教育事業のニーズの高さを確認できた。
- 絵本専門士に SNS アカウントでの広報を依頼したことで、元々絵本に興味のある数名の保護者から応募していただいた。講師の SNS アカウントのフォロワーが多い場合に広報に協力していただくと、より効果的であることが判明した。

※今回の吉田氏の Instagram フォロワー数は約 2,200 人

(3) 課題

- 活動途中、負傷の危険がある際に注意喚起を行ったが、活動中だとなかなか集中して聞いてもらえないため、要点を活動前にまとめて伝達しておくべきであった。
- たき火の際に各家族で読書や読み聞かせをしてもらう時間を設けていたが、たき火や飲食に意識が向き、あまり本を読む姿が見られなかった。読書と焚き火を組み合わせるならば、飲食のタイミングを調整するなどの検討が必要だと感じた。

事業区分 課題を抱える青少年を支援する体験事業

事業名 チャレンジサマーキャンプ in ASO

[主 催] 国立阿蘇青少年交流の家

[期 日] 令和6年7月13日(土)～14日(日) 【1泊2日】

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家及び大分県玖珠郡九重町

[参 加 者] 11名(小学生7名、中学生4名) ※引率：施設職員4名

[担当職員] 阿蘇青少年交流の家3名

[関係団体] WakuwakuOFFICEあそBe隊

[ボランティア] 法人ボランティア3名 熊本大学社会教育演習生2名

1 趣 旨

参加児童・生徒が日頃できないような大自然での活動をすることで、豊かな人間性と感性を育む。また、大自然での野外活動等、非日常的な経験をとおして、交流の楽しさや達成感、何事にもチャレンジしようとする気持ちを育む。

2 目 標

- (1) 参加者8割が、自然の豊かさやすばらしさを感じることができる。
- (2) 参加者8割が、二日間の活動を通じて、自身の成長や変容を認知することができる。

3 事業展開

- (1) 研修プログラム

7月13日(土)

時刻	内容
9:00	参加者 熊本市 発(貸切バス移動) ＜スタッフミーティング：各種情報共有・活動内容確認・役割分担＞
10:00	阿蘇青少年交流の家 着
10:20	開会式 入所オリエンテーション
11:00	オリエンテーリング(小：谷越え 中：ロング) 昼食(弁当)
13:30	チームビルディング
15:30	野外調理・夕食(ピザ・キャベツスープ)
19:00	入浴・休憩
22:00	就寝

7月14日(日) ※悪天候のため、雨天プログラムで実施

時刻	内容
6:30	起床・準備・クリーンタイム
7:00	朝のつどい
7:30	朝食
8:40	退所点検
9:30	阿蘇青少年交流の家 発
9:40	手野水源 着 水の飲み比べ
9:50	手野水源 発
10:30	八丁原地熱発電所展示館 着 見学
12:00	八丁原地熱発電所展示館 発
12:20	長者原ビジターセンター 着 昼食～見学
13:20	長者原ビジターセンター 発
14:30	阿蘇青少年交流の家 着
14:50	閉会式(振り返り記入)
15:20	阿蘇青少年交流の家 発(貸切バス移動)
16:45	熊本市 着

※参考 好天時プログラム

9:10 阿蘇青少年交流の家 発
10:00 牧ノ戸峠 着
10:20 黒岩山登山
13:30 牧ノ戸峠 発
14:30 阿蘇青少年交流の家 着

4 評価、成果と課題

(1) 評価

＜対象＞参加者 11 名・引率 4 名(2024.7.14 全活動プログラム終了後実施)

① 参加者 8 割が自然の豊かさやすばらしさを感じることができたか。

A：できた B：すこしできた C：あまりできなかった D：できなかった

設 問	回答	A	B	C	D
参加者：二日間の活動を通じて、自然のすばらしさを感じたり、自然の中の活動を楽しんだりすることができましたか。	回答数 (人)	7	3	1	
	割合 (%)	63.6	27.3	9.1	
引率者：子供たちは、二日間の活動を通じて、自然のすばらしさを感じたり、自然の中の活動を楽しんだりしていましたか。	回答数 (人)	4			
	割合 (%)	100.0			

参加者の声：雨はいっぱい降っていたけど、雨のおかげで水はできていると分かった。雨で山登りができなかった。牛を見たり、いろんな野菜を切ったりして、楽しかった。これからまた来たいですね。牛を初めてあんなに近いところで見られた。

引率者の声：普段見ることのない景色やプログラムの中で自然とふれあうことが多く、子供たちの見たことのない表情が見られました。一日目はオリエンテーリングで、二日目はバスの中からとてもきれいな自然の山や水等にふれることができており、子供たちも改めて自然の素晴らしさを感じることができたのではないかと思います。

② 参加者 8 割二日間の活動を通じて、自身の成長や変容を認知することができたか。

A：思う B：少し思う C：あまり思わない D：思わない

設 問	回答	A	B	C	D
参加者：二日間の活動を通じて、自分のことを「がんばったな」「成長したな」と思いますか。	回答数 (人)	8	3		
	割合 (%)	72.7	27.3		
引率者：子供たちは、二日間の活動を通じて普段より頑張っていたように思われますか。	回答数 (人)	4			
	割合 (%)	100.0			

参加者の声：ピザづくりを頑張りました。布団の片付けがしたことなかったので、布団をたたんで成長したと思いました。ゲームをしたときにみんなの意見をちゃんと聞いたときに成長したなあとと思いました。ピザの生地をこねるのが大変だったけど、がんばりました。

引率者の声：室内でゲームなどをするのが多い子供たちが体を動かしたり協力したりと熱心にプログラムに取り組んでいました。野外調理では、ほとんどの子供が初めてのピザづくりをしており、普段は包丁を握ったこともない子がきれいにカットするなど、やったことないことに積極的に取り組んでいる姿を見ることができました。

(2) 成果と課題

- 事業を計画するにあたり、事前の下見などを行い、安全面については、十分な準備及び対策を行うことができた。
- 終了後のアンケートから、事業の目的を十分に達成することができた。また、引率職員の声からも、子供たちにとって有意義な事業になったと言えることができる。
- 法人ボランティア、熊本大学教育学部演習生も積極的に子供たちや運営にかかわり、事業の目的達成に寄与することができた。結果として当人たちの成長にもつながったと言えることができる。
- 天候の判断が難しい場面が多かった。初日は、オリエンテーリングを開始した直後に大雨が降り、途中でプログラムを変更することになってしまった。
- 時間の関係で、各活動の準備や片付けなど、スタッフや引率職員がする場面が多かった。参加者と一緒に準備や片付けをできるような計画が必要だった。

事業名 阿蘇ボランティア入門塾

- 〔主 催〕 国立阿蘇青少年交流の家
 〔後 援〕 熊本県教育委員会
 〔期 日〕 令和6年6月15日（土）～6月16日（日）【1泊2日】
 〔活動場所〕 国立阿蘇青少年交流の家
 〔参加者〕 大学生33名 高校生9名 計42名
 〔講師〕 高見 大介 氏（日本文理大学）
 薄井 良文 氏（WakuWakuOFFICE あそ Be 隊）
 〔担当職員〕 阿蘇青少年交流の家2名
 〔ボランティア〕 法人ボランティア5名

1 趣 旨

- （1）ボランティア養成研修をととして、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- （2）施設職員や先輩ボランティアとの交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力に触れ、法人ボランティアとしての登録と活動への意欲を促す。
- （3）熊本県内の県立社会教育施設と連携し、ボランティア活動の選択の幅を広げる。

2 目 標

- （1）ボランティア入門塾の受講者全員がボランティア登録を行い、今後行われる実際の教育事業等においてボランティア活動に参加する。
- （2）ボランティア入門塾に参加者が主体的に参画し、参加者の8割が本事業に「満足」を感じる。

3 事業展開

- （1）研修プログラム

1日目 6月15日（土）		2日目 6月16日（日）	
10:30～11:00	開会式	7:15～ 7:30	朝のつどい
11:00～12:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術① （アイスブレイクの目的理解）	7:30～ 8:30	朝食
12:00～13:00	昼食	8:30～ 9:00	宿泊室の清掃・退所点検
13:00～14:30	【講義】ボランティア活動の意義 講師：高見 大介 氏	9:00～12:00	【講義・演習】安全管理 講師：薄井 良文 氏
14:30～14:45	休憩	12:00～13:00	昼食・休憩
14:45～16:00	【講義】青少年施設の現状と運営	13:00～14:00	【講義】青少年教育施設におけるボランティア
16:00～18:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術② （危険予知トレーニング、刃物と火の取り扱い）	14:00～15:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術④
18:00～19:00	夕食・休息	15:00～15:30	閉会式
19:00～20:30	【講義】青少年教育	15:30～	解散
20:30～21:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術③		
21:00～22:00	入浴・就寝		

- （2）活動の様子



【アイスブレイクの目的理解】



【ボランティア活動の意義】



【ボランティア活動報告】



【刃物と火の取り扱い】



【安全管理】



【県立4施設の事業説明】

4 評価、成果と課題

(1) 目的

- ・ ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- ・ 施設職員や先輩ボランティアとの交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力に触れ、法人ボランティアとしての活動について見通しを持たせる。

(2) 評価

① 参加者の満足度（42名全員回答）

質 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体の満足度はどのくらいですか。	回答数（人）	33	8	1	0
	割合（％）	78.7	19.0	2.3	0
当施設の法人ボランティアとして活動したいですか。	回答数（人）	25（とても）	13（したい）	2（あまり）	2（したくない）
	割合（％）	59.5	31.0	4.8	4.8

② 参加者の声

- ・ アイスブレイクや座学を通して、ボランティアについて幅広く、楽しく学ぶことができた。
- ・ ボランティアとして活動する上で、危険予知や安全管理はとても大事だと思った。実践を交えて学習できたことがとても参考になった。
- ・ 事業に参加する前は不安が多かったが、運営スタッフやボランティアの方が笑顔で元気よく活動していたので、自分も次第に輪の中に入ることができた。
- ・ たくさんのことを学ぶことができたが、スケジュールがきついと感じることもあった。

(2) 成果

- 先輩法人ボランティアが活躍している姿を参加者に見てもらうため、各講義の進行等を先輩法人ボランティアで役割分担して実施した。参加者により近い存在として、活動の具体的なイメージを伝えることができた。
- 参加者同士のコミュニケーション活動を促すために、固定化された班ではなく、カリキュラムごとに班構成を変更した結果、参加者同士の交流の場を多く設定することができた。
- 県内の公立施設と連携し、公立施設の紹介ボランティア活動に関する内容について施設職員からの説明の時間を設けた。今後、阿蘇のみならず県内公立施設におけるボランティア活動につながる機会を提供することができた。

(3) 課題

- 参加者の感想には「入門塾が楽しかった」という記述が多くあるものの、今後の教育事業に向けた意見は少ない状況である。教育事業参加への意識付けについて検討したい。教育事業参加の希望調査等を実施し、参加者に法人ボランティア活動の見通しをもたせる取組を続けていきたい。

事業名 自主企画事業：ファミリーキャンプ!!～家族の宝探し編～

〔主 催〕 国立阿蘇青少年交流の家

〔後 援〕 熊本県教育委員会

〔期 日〕 令和6年10月26日（土）～10月27日（日）【1泊2日】

〔活動場所〕 国立阿蘇青少年交流の家

〔参加者〕 小学生16人 中学生3人 高校生1人 大人18名 計38人

〔担当職員〕 阿蘇青少年交流の家2人

〔ボランティア〕 法人ボランティア6人 熊本大学社会教育演習生1人

1 趣 旨

親が子供のありのままの姿に気づき、ありのままの姿を受け入れる。そのことを愛情表現で子供たちに伝え、その愛情表現で愛が伝わったことを実感する。

2 目 標

- （1）親が子供と一緒に過ごす中で、子供にもっと目を向けて、新たな一面を発見する。
- （2）親がありのままの子供が大切に好きだという気持ちを伝える
- （3）子供が、ありのままのあなたが好きだという親の気持ちを受け取ったことを伝える。

3 事業展開

（1）活動プログラム

1日目 10月26日（土）		2日目 10月27日（日）	
10:00～10:15	開会式	7:30～ 9:30	カートンドッグ作り
10:15～11:00	アイスブレイク	9:30～ 10:30	みんなで力を合わせろ
11:00～15:00	脱出ゲーム（昼食弁当含む）	10:30～ 12:00	家族の宝物づくり （スクラップブック作り）
15:00～19:00	親子逆転ピザ作り	12:00～13:00	昼食
19:00～20:00	入浴・休息	13:00～14:00	お手紙交換会
20:00～21:00	家族団らん	14:00～15:00	片付け
21:00～22:00	就寝準備	15:00～15:15	閉会式
22:00	消灯	15:30	解散

（2）活動の様子



【アイスブレイク】



【脱出ゲーム（あそのん救出）】



【親子逆転ピザ作り】



【カートンドッグ作り】



【みんなで力を合わせろ】



【家族の宝物づくり】

4 評価、成果と課題

(1) 評価

① 参加者の満足度 (35 人回答)

質 問	項 目	満足	やや満足	やや不満	不満
2 日間のファミリーキャンプは満足できましたか？	回答数 (人)	32	3	0	0
	割合 (%)	91.4	8.6	0	0
ファミリーキャンプをと おして家族の新たな一面を 発見することができました か？	回答数 (人)	保護者		子供	
		16 (できた)	1 (できなかった)	12 (できた)	4 (できなかった)
	割合 (%)	94.1	8.9	75.0	25.0

② 参加者の声

【保護者】

- ・ファミリーなので、幅広い年齢の参加者がいる中で、充実したプログラムでとても楽しかったです。
- ・ボランティアの方が、すごく明るく笑顔で対応してくれたことが嬉しく安心できました。
- ・ゲームが盛りだくさんで、子どもとのふれあいや参加者同士のふれあいが楽しかったです。

【子 供】

- ・ピザがおいしかったです。
- ・父がかわいい絵を描けるのを、はじめて知りました。
- ・何事にも楽しそうな姿のママを新たに知ることができました。

(2) 成果

- 参加者の 9 割以上が本事業に満足を感じることができ、7 割以上の参加者が家族の新たな一面を発見することができた。
- 脱出ゲームにおいては、雨天プログラムでの対応であったが、入念な準備の成果もあり、参加者は屋内でも楽しむことができていた。
- 本事業は、学生ボランティアを中心に企画・運営を行い、約半年間の準備を経て実施することができた。学生の思いをかたちにすることができ、学生にとっても貴重な体験活動となった。

(3) 課題

- ピザ作りの際に、軽度の火傷を負った方がおり、セーフティトークによる注意喚起や道具の使用にあたっては今後改善が必要である。
- テント数やピザ作りの際のかまど数に制限があり、申し込みのあった全家族を参加者として招くことができなかった。

あとがき

当所では、青少年教育のナショナルセンターとして、青少年をめぐる様々な課題へ対応するため、教育的な観点から青少年に対して体験活動等の機会や場を提供してまいりました。

その中でも、当所の主催する教育事業では、体験活動を通して、参加する子どもたち一人一人の学びや成長につながるよう、阿蘇の恵まれた自然環境や社会教育の利点を最大限生かしつつ、地域や関係機関の皆様の御協力を得ながら、事業の企画運営を実施しております。

今年度も、教育事業に参加した子どもたちからは、「班の友達と助け合うことができたので、日常生活でも頑張りたい」や「つらい時に、力を振り絞って頑張ることができた」といった反応があり、仲間への協力や思いやり、最後までやり遂げる力等の醸成など一定の成果を得ることができました。更には、ジュニアジオガイド講座の事業では、「大人になったら野焼きボランティアなどで阿蘇の自然を守りたい」といったコメントもあり、阿蘇地域の歴史や現状を理解した上で、地域課題を「自分事」として捉えている様子を伺うこともできました。

また、教育事業で活動している高校生や大学生等のボランティアは、事業運営にあたって重要な役割を果たしていますが、ボランティア本人にとっても、参加者のサポートを行い子どもたちと直接関わることを通して、学びや成長の機会となっています。加えて、ボランティアの経験が、将来の教員人材の確保や資質向上といった学校教育における課題解決の一助になることも期待しているところです。

一方で、これまでも事業内容の改善、一部見直しを実施してきたところですが、特に夏場の熱中症対策や活動中の事故防止など参加者の安全安心を十分に確保するための体制確保や、事業を効果的かつ効率的に実施するための取組など懸案事項への対応は必要不可欠です。このような課題解決のためにも、地域や関係機関の皆様の一層のお力添えや連携強化が必要です。

社会教育の一翼を担うものとして、皆様からの御理解を得ながらその成果を還元できるよう、職員一丸となって更なる研鑽に励んでまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

Aso National Youth Friendship Center

国立阿蘇青少年交流の家